

2012. 5. 27 聖別会

IMMANUEL

インマヌエル
中目黒キリスト教会
聖別会マンスリー



2012年

デニス・キンロー著「キリストのように生きる」

IV. 「神に倣う者となる」

テキスト：

「愛されている子供らしく、神に倣う者となりなさい。また、愛の中に歩みなさい。キリストもあなたがたを愛して、私たちのために、ご自身を神へのささげ物、また供え物とし、香ばしい香りをお捧げになりました。」（エペソ 5:1-2）

■表題聖句の内容

1. 「神に倣う」とは、キリストがなされたように、愛の中を歩むことである。
2. 歩むとは、生活のパターンのこと
3. キリストの愛（アガペ）とは、自己放棄の愛である。「自分のことを考えるよりも他者を考える愛、隣人のために自分を犠牲にするほど愛する愛」であり、それは、自分を捧げ物として与え尽くしたことで表わされた。そしてその愛を実行するようにと私たちに語っておられる。その反対概念は、「支配すること」である。

■キリストの4つのイメージ

1. 惨めな姿での来臨(ヨハネ 1:11)
2. ロバの背でエルサレムに入城(マタイ 21:1-5)
3. 跪いての洗足(ヨハネ 13:2-5)
4. 十字架の犠牲(ヨハネ 19:16-18)

■「神に倣う」とは、「神が私たちが愛し、私たちのためにご自身を与えてくださったように、他者を愛すること」。真に降伏することが、解放と自由の道である。他者のことを自分よりも心にかけると、私たちは神(に受け入れられる)芳香となる(エペソ5:2)。

■利己主義の放棄への招き

エペソ5:1-2は、信徒への招きである。私たちは未信者を救いに招く時、彼らの利己主義に訴えることが多い。だから、救われたばかりのころは、自分の利己主義に気付かないことがありうる。しかし、キリストの模範を見続けると、自己中心の深さが探られる。

■私たちに求められていることは、「神の御霊が私たちを通して働くために、…霊的に聖くなること」である。利己主義的思考から自由になることは可能か？パウロは、「差し出されたキリストの恵みを利用することによって」可能と答える。その実例として無私の心で主に仕えたテモテを挙げている(ピリピ2:19-21)。

■終わりの祈り

「十字架の上で死なれた神に私たちの人生を支配していただくことを恐れないようにしてください。あなたが支配して下さるときだけ、私たちは完全に自由となるのです。アーメン。」